

平成 28 年度南予地方局予算の実施状況 (H29. 3. 31 現在)

- 1 予算事項名 柿産地力強化支援事業費
- 2 事業期間 平成 28 年度～平成 29 年度
- 3 所 管 産業経済部八幡浜支局産地育成室
- 4 事業概要

大洲喜多地域は柿の主要産地で、刀根早生、富有等が栽培されているが、近年着色の遅れや出荷時期の集中化等問題を抱え、技術対策が必要になっている。そこで、まだ本県で導入されていない「環状剥皮処理技術」を新たに導入し、果実肥大促進と収穫の前進等に取り組み、農家所得と産地力の向上を図る。

	平成 28 年度
予算額	807 千円

5 28 年度の事業実施状況

(1) 柿産地力強化検討会の開催

地域の主要品目である柿の産地力強化を図るための対策ならびに事業の推進方法について協議する検討会を 3 回開催した。構成メンバーは、JA 愛媛たいき、JA 愛媛たいき柿生産部会代表者、大洲市、内子町、県(農産園芸課、果樹研究センター、八幡浜支局産地育成室、地域農業室大洲農業指導班)。

① 第 1 回 : 5 月 26 日開催

事業概要と検討会開催計画を説明し、現地実証圃の実証内容について検討した。柿部会や J A は、集中出荷を改善し有利販売につながる栽培技術としての期待や剥皮処理に対する具体的な課題を示した。また、果樹研究センターからは、過去の研究事例報告や実証方法等への助言を得た。

② 第 2 回 : 7 月 11 日開催

現地実証圃(内子町村前)において現地検討会を開催し、実証圃設置経過を報告するとともに、実証内容や剥皮の方法について意見を交換した。

③ 第 3 回 : 8 月 30 日開催

事業の進捗状況や収穫調査の実施方法、柿全般の生育状況や今後の生産・出荷計画等について情報交換や取組内容の検討を行った他、現地実証圃(内子町村前)において、刀根早生の着色状況や枝折れ防止資材の試行状況を視察し、意見を交換した。

④ 第 4 回 : 3 月 7 日開催

現地実証圃における調査結果の検証と残された課題を整理し、生産販売状況を踏まえて次年度の現地実証圃実証内容について検討した。また、産地での技術普及推進について、講習会の経過報告と次年度の予定を確認した。



実証圃設置内容の現地検討
(第 2 回検討会、7 月 11 日)

(2) 早期出荷と果実肥大促進対策の検討（現地実証圃の設置）

出荷時期の早期化及び果実肥大促進に向けた環状剥皮処理技術を確立することを目的に、現地実証に取り組んだ。

処理の方法（剥皮とキュアリング）と時期（6月中旬、下旬、7月上旬）を組み合わせ調査した結果、高単価で販売される9月中に収穫できた果実は、無処理枝が4割未満であるのに対し、剥皮処理では9割、キュアリングでは6割であった。

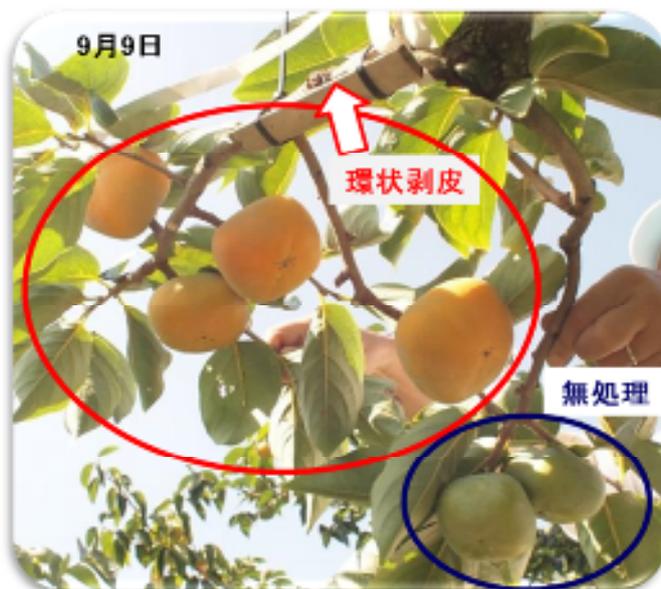
また、処理時期が早いほど、着色がすすみ収穫開始が早まる傾向もみられた。



環状剥皮：1cm幅で皮を剥く
（枝折れ防止に添え木をした状態）



キュアリング
（1mm幅の傷を3本入れる）



環状剥皮やキュアリングにより着色・肥大が促進され早期出荷につながる

